

## まちづくりの現場と授業への活用

吉田 洋子

### 【私の専門】

私の専門は都市計画・まちづくりです。地域にまちづくりコーディネータとして出向き、住民の方たちとワールドカフェを行ったり、ワークショップなどのやり方で合意形成のお手伝いをしています。新しいまちを作る時代ではなく既成市街地の再生が中心の時代になってきていますのでその需要はいよいよ高まってきています。

横浜市が中心ですが神奈川県各市や長野県の飯田市のまちづくりにも関わっています。また神奈川県では15年位学生たちと神奈川県魅力さかせ隊というまちづくり活動も進めてきています。

### 【神奈川大学の授業】

神奈川大学では“新しい公共のかたちを求めて～ジェンダー”という授業です。この授業は井上匡子先生（法学部法哲学専門）を中心に複数の女性教員で取り組んできました。その授業の中で私は私の専門分野であるグループワークを中心に授業の組み立てを行っています。



写真1 マンションでの場面



写真2 学生に防災寸劇の役を説明しているところ

1年生から4年生、全学科の学生が受講できる授業です。学生たちは座学だけよりグループワークなどで自らも考えるという過程を経ることで内容の理解はとて深まります。とくに今年度より100分授業になったこともあり、ただ話を聞くだけの授業より学生自らが考えるグループワークがある方がとてよいように思います。

またともすると机上の論というか大学の中だけでの勉強だと抽象的でなかなか理解がされないこともあると思いますがまちづくりの生々しい現場のことを授業に取り入れることで学生の理解に対して効果の高い内容にすることができると思います。

私の神奈川大学での役割は社会と大学をつなぐところにあると考えます。また各専門分野に世の中分かれてしまっていることが多いのですが、多様な学科の学生が受講しているので多様な分野をつなぐ役割も果たしているのかも思います。またジェンダーに関してはNPO法人かながわ女性会議の活動も私



は行っていますのでNPOと大学ともつなく役割も果たしています。

#### 【具体的な授業の一例】

ジェンダーの授業に「防災寸劇」を取り入れた授業について紹介をします。NPO法人かながわ女性会議では阪神大震災以来「女性の防災」について現地の方をお呼びして講座を行ったり女性の問題が避難所などでもたくさんあることに気づいてきました。中越地震のあと山越へいったり、3・11の東日本大震災のあとは仮設住宅や女性の問題をヒアリングに現地にいったりもしました。



写真3 避難所の場面

江の島の女性センターで講座やワークショップを行ったりしてきましたがなかなか女性の問題がリアルに皆様に伝わらないことから「防災寸劇」朗読劇ですがそのシナリオを書くことにしました。

授業でもその活用は具体的でなおかつ違う立場の経験ができるので学生にもわかりやすいのではないかと授業にも取り入れてみました。この寸劇はいつみればロールプレーゲームです。男子学生が若い

赤ちゃんを連れてお母さんの役をやったり、若い女の子の役をやったりわかりやすい内容です。またともするとリーダーを嫌がる（これもジェンダーの問題ですが）女子学生に強いリーダー役をやってもらったり。皆違う立場の役になってみるといろいろ見えてくる面があったようです。学生のリアクションペーパーの内容を見ても防災時にジェンダーの課題があること。多様な人たちがまちにはいるのだ、そこを理解して皆で協力しあわなければいけないのだというこの理解が進んだようです。

ここでは一例として「防災寸劇」を取り上げましたが多様なジェンダーの問題をグループワークや賛成反対などのディベートなどで授業に変化をつけ、話を聞くだけでなく自分から考え、研究し学んでいく学生の姿勢を教える授業になっていると思います。グループワークも新しい試みでしたが100分授業になった今多くの科目でもぜひ取り組んでほしいものと考えています。

(法学部非常勤講師)



写真4 女性と防災についての講義